

発行日：2026年4月2日

「3.8国際女性デー」街宣活動と12回目の学習会を開催 ～ジェンダー平等への理解深まる～

3月8日（日）、新日本海新聞社中部支社ホールにおいて、国際女性デーの取り組みとして「3.8 国際女性デー 学習会」を開催し、67人（女性48人、男性27人）が参加しました。

学習会に先立ち、あじそうパープルタウン店前で、メモ帳とオニオンスープの配布を行い、国際女性デーの意義を広く呼びかけました。その後会場を移し、学習会がスタートしました。

冒頭、桶本女性委員会委員長があいさつし、「女性の活躍する場は課題が山積みであるものの、鳥取県はアンコンシャスバイアス等の解消に向けた取り組みをより推進していくこととしています。この学習会を通じて考えることから始めましょう。」と述べました。また、2026年4月に男女雇用機会均等法が施行40年を迎えること、鳥取県が行政分野のジェンダーギャップ指数で5年連続1位である一方、政治分野では課題が残っていることにも触れ、引き続き取り組みを進めていく必要性を呼びかけました。

続いて、連合鳥取の北畑仁史会長からは「鳥取においては女性の賃金格差は低いといわれているものの、さらなる処遇改善へ向けてともに取り組んでいきましょう。そして、国際女性デーの意義を改めて共有し、ジェンダー平等の実現に向けて取り組みを進めていきたい」との激励のあいさつがありました。

講師には、鳥取大学ダイバーシティキャンパス推進室の山崎有紀子さんをお迎えし、「ハッピー・バイアス・トーク ～国際女性デーに贈る、気づきと対話の時間～」と題してお話いただきました。

参加者は「部下への配慮」「子どもの急な迎え」「管理職のイメージ」など、身近に起こりうる3つのケースをもとにグループワークを実施しました。対話を通じて、無意識の偏見が日常の言動や判断に影響を与えている可能性に気づかされ、理解を深める時間となりました。

最後に、誰もが多様性を認め合い、互いに支え合う公正な職場・社会の実現を訴えるアピールを採択し、参加者全員でシンボルマークを掲げてアピール行動を行い、学習会を締めくくりました。

【記事：西村晴子幹事（JR連合）】



▲ 講師の山崎有紀子さん



▲ グループワークの様子 ▲



▲ 参加者全員で「3.8国際女性デー」をアピール◎

学習会前段に、連合鳥取青年委員会の方々にもご協力をお願いし、あじそう パープルタウン店前で、【3.8 国際女性デー メモ帳】と【オニオンスープ】を来店のみなさんに配布し、「3.8 国際女性デー」の取り組みについてPRを行いました。



▲ 出入口周辺での様子▲

<参加者の声> ※当日のアンケートからご意見・感想をいただきました（抜粋）
ご協力いただきありがとうございました♪

◎「自分の中にある無意識の思い込み」に気づいた点

- ・グループワークで、皆さんの意見を聞いているときに、自分の思い込みが多々あること。
- ・自分は「当たり前」だと思っていたことが、実は無意識に思い込みをしていたこと。
- ・無意識の思い込みを変えるのは、なかなか難しい。

◎「このことを意識してみよう」と思うスモールアクション

- ・小さなことでも対話を増やす。
- ・自分の「普通」は、他人の「普通」ではない。
- ・人の心のトゲにならないように、言葉を選んで会話をする。

無意識の思い込みに気づき、対話を重ねることは、誰もが安心して働ける職場づくりにつながります。今回の学習会が、その一歩を踏み出すきっかけとなれば幸いです。



【今後の取り組み】

6月28日（日）午前、「産別交流会」を予定しています。
内容については、現在検討中ですが、みなさまの積極的なご参加をお願いいたします。

★ご意見などは連合鳥取まで

[TEL: 0857-26-6605](tel:0857-26-6605)

Mail: tottori@tottori.jtuc-rengo.jp

